

筑波医療科学

Tsukuba Journal of Medical Science

On-Line Journal

URL <http://www.md.tsukuba.ac.jp/public/cnmt/Medtec/journal.htm>

TJMS 2007; 4(2): 9-17



筑波医療科学 第4巻 第2号

Tsukuba Journal of Medical Science Volume 4, Issue 2 (2007, Sept 25)

【目次】

- 【特別寄稿】「桐技会」会報 No.2 / 役員会 9
- 【MedSci Forum】1期生に対する国家試験に関するアンケートから..... 10-13
桐技会企画
- 【MedSci Forum】医療科学主専攻一回性の就職活動.....14-16
桐技会企画
- 【編集後記】.....17

【表紙のことば】

医療科学類同窓会「桐技会」役員会 (2007. 5. 12)

【特別寄稿】桐技会 会報 No. 2

筑波大学 医療科学類同窓会 『桐技会』 役員会

5月12日に2007年度第1回役員会が開かれました。はじめに4名の新学生役員が紹介されました。その後、総務・経理・会報・名簿の

運営について話し合いました。また4月に桐医会(筑波大学医学同窓会)に挨拶に行ったことが報告されました。



【MedSci Forum】 1期生に対する国家試験に関するアンケートから

桐技会企画

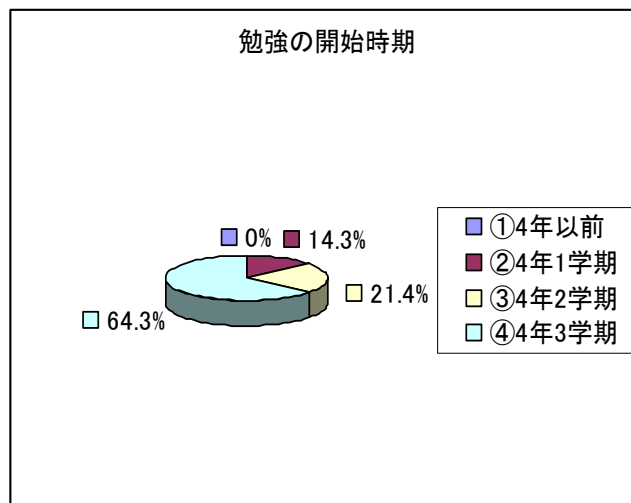
今学期から「医学検査学フロンティア」の講義が始まり、現4年生は臨床検査技師国家試験を意識し始めたかもしれない。残り半年でどのような対策を打てばよいかを1期生に聞いた。

対象: 1期生(2006年度卒業生)、
方法: メールリストで送付、
回答数: 14(35%)

1. 勉強開始時期について

多数の人が4年3学期以降に勉強を始めたという回答した。4年1学期には病院実習と卒業研究、夏休みには卒業研究と大学院入試・就職活動、そして2学期には卒業研究の仕上げがあり、こうした状況が影響していると思われる。

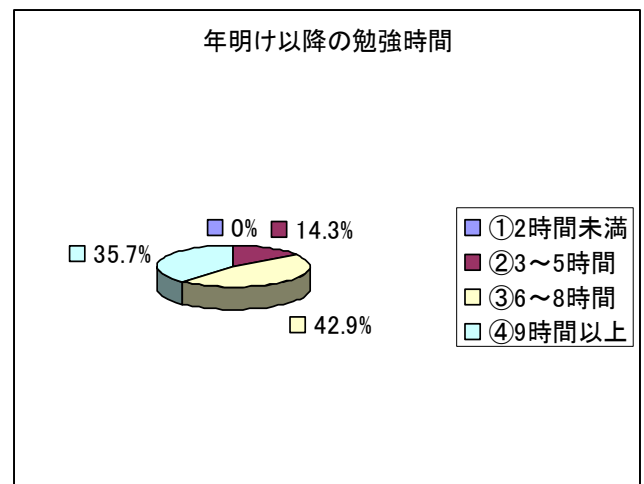
	人数	割合
①4年以前	0	0%
②4年1学期 (夏休みを含む)	2	14.3%
③4年2学期	3	21.4%
④4年3学期	9	64.3%



2. 年明け以降の勉強時間

年明け以降、多数の人が1日6時間以上勉強していることが分かった。

	人数	割合
①2時間未満	0	0%
②3~5時間	2	14.3%
③6~8時間	6	42.9%
④9時間以上	5	35.7%



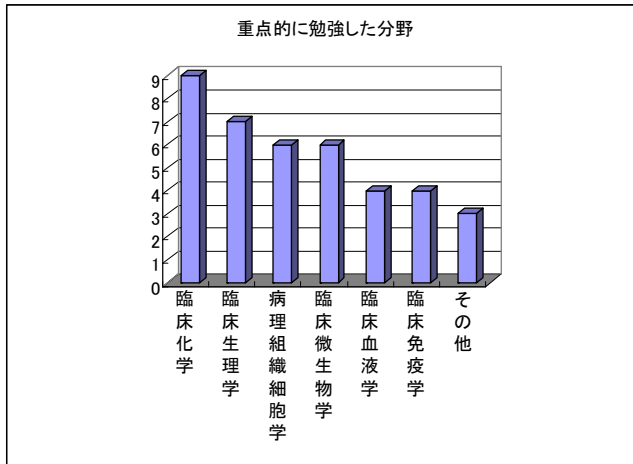
3. 重点的に勉強した分野

答えていただいた分野の名称がばらばらであったため、以下の分野の名称で分類した。なお回答は複数可とした。

医用工学概論、公衆衛生学、臨床検査医学総論、臨床検査総論、病理組織細胞学、臨床生理学、臨床化学、臨床血液学、臨床微生物学、臨床免疫学

臨床化学や臨床生理学、病理組織細胞学、臨床微生物学と回答した人が多かった。これらは点数の上で大きなウエイトを占めており、しっかり勉強し直す必要があると思われる。その他として医用工学概論、医動物学(臨床検査総論

に含まれる)、関連法規(公衆衛生学に含まれる)という意見があった。



4. 勉強のコツなど国家試験対策のアドバイス

①国家試験は過去問5～10年分を選択肢のどこが正しくてどこが間違っているのかを理解したうえで解答を選べるようになれば合格できると思います。一応、安心感を得るために分厚い問題集も解きましたが、全部解き終わらず逆に焦るくらいならやらないほうがいいと思います。

また、問題を解く際、分からない問題に関しては、覚えてなければいくら考えても分からないので、潔く諦め、解答・解説を理解するようになったほうが効率がよいと思われます。そのとき、「へー、そうなんだあ」と思った問題は、たいてい後で解いても間違うのでチェックしておいて復習することをお勧めします。語呂をつかって友達と見せ合ったり交換したりするのも有効です。

あまり家に引きこもりすぎないように学校や図書館を利用するなどして、気分転換を図りながら進めるようにしたほうが最後まで頑張れます。研究室との両立は大変ですが頑張ってください。

②勉強を本格的に始めた頃には卒研は終わっていたので両立に関しては何も言えません。使った本は青い(金原だっけ?)過去問集とファーストトレーニングを使っていました。学校でやる

模試はまったく気にしなくてよいと思います。正直あんなもん何の参考にもならない気がします。重要なのは諦めないことです。

あと、たまには息抜きも必要です。リーベンの外で友達とおしゃべりもいいですよ。そこでもお互い国試のこと話すと知識の整理になりますし?まとめると、過去問ひたすら繰り返せば6割はいきます。てことで頑張ってください^b

③2月の中盤までにどの年の問題が出て6割とれるようになれば大丈夫だよ。解説を読みながら一日1年分やっていけばかなり力つくから焦らずに!

あつ、あと国試受かるだけが目的なら、一つの方分野に固執せずに広く浅くやっていった方がいいと思います。大学生らしくちゃんと遊んでリフレッシュしながら頑張ってください。

④早い時期にじっくり過去問を解いておくこと。一人で勉強する時間、友達と一緒に勉強・情報交換する時間、両方の時間をうまく作ること。卒業研究の期間も毎日少しでも国試対策の時間を設けること。

模擬試験の問題・解説を大いに活用すること。

⑤あきらめない

⑥語呂を沢山作って、覚えまくりました。Amazonにも語呂の本が販売してあるので、オススメです。老婆心ながら、自分は1月中旬から勉強始め、1日18時間勉強し、合格しました。後1週間欲しかったなと思いましたので、遅くとも正月から始めた方がいいと思います。

⑦国家試験の過去問を解き、気になる点について教科書で確認すると思います。過去問の本は自分に合うものを見つけてみてください(解説の有無・詳しさ・掲載場所)。教科書については医歯薬出版以外のものも見てみるでしょう。

⑧とにかく過去問を何年分も繰り返しやったほう

がいいと思います。それでわからないところを教科書で見る程度で大丈夫です。模試は難しいので特にやらなくていいと思います。頑張ってください。

⑨語呂の本は使えます

⑩基本的に過去問集を3~4回通りやって、まとめる点や不明な点を解決するために教科書や参考書などを用いて学習した。また、1,2月 は研究室での実験を休ませていただいたので、年明けから重点的に勉強をした。

⑪パワーアップ 語呂専科—臨床検査技師国家試験対策

ゴロを覚える。それ以外に自分でもゴロを作って、友達同士で教えあう！

医学領域における臨床検査学入門—藤田保健衛生大学『臨床検査学入門』編集委員会

詳しくはのっていないけど、過去問に出たことのある内容はすべてのっている。これに書き込むなどして、まとめの本として使用。

臨床検査技師国家試験問題注解—金原出版

過去問(2002年など出題年数がのっている問題と既出問題のみ。練習問題はやらなくていい。) 2~3回やる。2・3回目以降は間違った問題だけでよい！

医歯薬出版の過去問のCD-ROM

あきたときにやった。問題を覚えてしまうのが難点。

順番的には・・・過去問を分野ごとにやる(たとえば生理機能の脳波だけ・・・とか)。するとだいたい出るところがわかる。わからんところは調べて理解する。使えるゴロはノートにまとめるなどする。あったらなあって思うゴロはどんどん作る。→次の分野の繰り返し。

一月の模試では3割くらいしかなくて、本格的に始めたのは1月終わりでしたが、本番では8割くらいとれました。だから年明けからで全然大

丈夫です！私の場合、研究室に1月も行って実験していましたが、年明けからは休ませてもらうのがいいと思います！まわりと比べることもあると思うけど、焦らず自分のペースを見失わずに勉強したら必ず受かると思います。友達同士で楽しく勉強できたらベストだと思います。がんばってください！

⑫医歯薬出版の国家試験対策(過去問が分野ごとに載っていて、解説付き)過去問集も5年分？くらいついている)年明けに購入し、これを中心に勉強した。2回くらい繰り返して、上記重点的の分野は2回以上やって、苦手なところは解けるまで何回もやった。この本はゲーム感覚で解ける過去問 CD もついている、国家試験直前は朝起きて10分、寝る前に10分、とかちょっとした時間でやっていた。

語呂専科(出版社忘れました)思ったより全部を網羅していないし、覚えにくそうな語呂合わせもあるが、まあまあ役だった。

暗記が多いが、理屈を覚えれば結構解けたりもする。特に生理機能とか。試験中思い出せなくても、循環器とかは考えれば解ける問題もある。生理機能に限らず、理屈を理解するのは大事で、近道だったりする。だから問題集の傍ら必ず赤本と、赤本だけだと不十分な部分も多いから専門書を参照しながら勉強した。直前はさすがに問題集のみ。

病理の染色法とか化学の検査法の名前とか細菌の性状とか暗記しなきゃしょうがないものは、語呂合わせを考えて無理矢理覚えた、わりと直前に・・・

⑬参考書を一冊読み、過去問を解きました。

⑭私は結局試験当日まで4年分しか終わらなかったですが、数年分やると同じような範囲から出ている問題も多かったのもので、その範囲を赤本の教科書&授業プリントを使ってノートにまとめ

した。逆に、一度程しか出てこない範囲の問題は捨てていました。

たくさん問題をこなすのももちろんいいことだと思いますが、たくさんやっても中途半端になって覚えられないという方は、数年分を丁寧にやって見直しをするというのも一つのやり方だと思います。

ちなみに、私は卒研との両立は出来ませんでした。これも研究室によって出来る所と出来ない所があると思いますし、両立が得意な方もいれば苦手な方もいると思うので、両立できないからといって焦ることはないかと思います。研究室の教官に掛け合って無理なようなら、卒研が終わってから国試勉強を始めても間に合うと思いますよ。(私もそうだったので)

【MedSci Forum】 医療科学専攻一回生の就職活動**桐技会企画**

今年の春に初めての卒業生を送り出した医療科学専攻(現・医療科学類)。様々な分野に進んだ卒業生の中で、今回は病院や企業に就職した皆さんから後輩へのアドバイスをいただきました。

1 回生 A・I 大学病院勤務

「就活～或る大学病院の場合～」

【就活を始める時期】

どこからを就活と考えるかによりますが、私は病院に就職することを大体4年生の最初頃には決めていて、夏休みには自分がいいと思う病院に見学に行ったりしました。病院に見学に行ったり、実習したいのであれば、時間的にも時期的にも夏休み中がいいのではないかと思います。秋頃から病院の新卒者の募集が出始めて、一番多いのが12、1、2月頃だったと思います。その時期は自分の行きたい病院が募集をかけるかを常にチェックしていました。そして年明けに就職試験。病院は他の企業などに比べて募集が遅いのでギリギリまで就活といえるほどのことはできなかったです。色々な病院で試験が始まって実際に勝負どころとなるのは年明けくらいからでしょうか。

【募集要項の見つけ方】

私の場合は、就職先の病院のホームページから募集を知りました。その病院に直接、「採用はありますか？」と聞いたりもしたのですが、「募集があったらHPに載せるのでそちらで確認してください」と言われてしまいました。他には、筑波大学の就職課のサイト(臨床検査技師用)や、ハローワークのサイトなどもチェックしました。インターネットを大いに利用するのが良いと思います。

【病院見学について】

私は、4年生の夏休みに何件か就職したいと思った病院に見学に行きました。見学に行っていたことが就職に有利に働いたかどうかはわかりませんが、行かないよりは行っておいた方がいいかもしれません。私の同期の新人も見学には来たと言っていたので。それに何より、自分のためにはプラスになると思います。自分が将来働くかもしれない場所の雰囲気や人々を少しでも知ることができて良いと思います。数件見学に行けば、病院同士の比較にもなって自分がどういう職場に適しているかなど考えられてとても良かったです。

【試験の内容について】

就職試験は、私の受けた病院は

- ・国家試験レベルの選択式問題
- ・英語の論文読解問題
- ・面接(4人ずつ)でした。

筆記試験の結果がどれだけ合否に影響しているかはわかりませんが、国試レベルの問題より英語論文読解問題に重点が置かれていると思います。特に私が受けたような大学病院では、英語論文読解問題の内容はネイチャーで発表された論文の一部で、“ポリフェノールが肥満に効果的？”みたいな内容でした。辞書の持ち込みは許可されていましたが、時間がなく、全問題に目を通すのに精一杯でした。中にはとても基本的な問題もあったので、卒研などで論文を読むことに慣れておけば試験対策になると思います。

そして面接ですが、面接では次のことを聞かれました。

- ・自己紹介(経歴なども)
- ・当病院の基本理念
- ・自分のアピールポイント

自分のアピールポイントや、やりたいことなどを一番多く聞かれたので、そういった事を事前に考えておくと良いかもしれません。

【就職後の仕事】

私は今大学病院の細菌検査室で働いています。大学病院の検査部は、人がたくさんいて仕事也多岐にわたるので、学生時代に抱いていたような”病院検査部は狭い世界”というようなイメージはあまりありません。実際の仕事は、採血業務や輸血当直、緊急検査当直なども当番制で行っており、細菌検査以外にも色々な検査を覚えなければなりません。また、その他事務仕事やマネジメントと呼ばれる委員会活動にも参加したりと、思った以上に大変なこともあります。しかし、大学病院は非常に恵まれた環境だと私は考えます。業務後に様々な勉強会が開かれたり、勉強熱心な先輩技師に教わることができたり、希望をすれば進学することもできます。ただ、ルーチン検査に追われて忙しい環境ではなく、自分次第でいくらでも自分を磨くことができる場なのではないかと思えます。

以上が私の昨年1年間の就活体験記です。他の病院はもちろん、同じ病院でも毎年試験の傾向は変わるので全て皆さんにも当てはまるとは言えませんが、少しでも皆さんの参考になり、今後の就活に役立ててもらえると嬉しいです。

1 回生 Y・S 市立病院勤務

編入学をしたものの、大学院への進学か就職かはっきりと決めかねていたため、両方の準備をしていました。

就職は地元つくば周辺でと考えていました。つくば周辺の病院は、大学が近くにあることもあり、お互いに事情がわかっていると思いますが、地元の病院はそうは行かないので早めに病院見学に行こうと思っていました。短大の時から地元の病院の求人情報はチェックしていて、募集時期がだいたい夏だったので、3年の夏には病院見学行きました。

見学先の病院は、実家から通える範囲で考え、2つの病院に行きました。1つは公立の病院で、もう1つは少し大きい病院に行きました。病院によってだいぶ雰囲気が違ったのです

が、あまり大きい病院は自分に合わないと感じたので、自宅周辺の公立病院を中心に探そうと思いました。

試験内容は、

①作文試験：3つあるテーマのうち1つ選び、400字くらい書く→私は、“理想の臨床検査技師像”について書きました。

②一般教養試験：公務員試験用の本を買いました。

③面接：受験申し込み時に自己PRを書いたので、それを覚えるようにはしていました。しかし当日、面接で聞くことを事前に教えてくれたので、それを覚えました。

結局、求人が出たのは自分の見学先の病院ではなかったですが、自宅周辺で求人はそこだけだったので、受験することにしました。私の勤めている病院は、公立の病院で、常勤であるため倍率は高かったです。そうすると、面接はかなり重要となってくるので、自己アピールできる何かがあると非常に良いと思います。大学時代の経験は、後に自分にプラスになることが多いと思うので、いろいろな経験しておくことをお勧めします。

1 回生 H・S 一般企業勤務

「就職活動について」

まず、就職活動の種類なのですが、自分の経験では病院希望か企業希望かで就職活動の方法が変わってくると思います。

企業就職を希望する場合は就職活動を始める時期としては、早い人では2年生の終わりの時期から希望の職種セミナーなどを受けて開始する場合がありますが、普通の場合はほとんど3年生の秋頃からが本格的な就職活動の時期にあたると思います。そして、大体の就活生はインターネット上で就職サイトに登録して自分の希望する職種で企業を検索し会社説明会に参加し、試験を受けたい場合はその会社ごとに試験を受けます。医療科学内では一般企業について知る機会があまりないと思いますので、まずは大学の就職課に相談に行

くのがいいと思います。

病院を希望する場合は、まず病院見学から始まります。時期としては一般の就職活動に比べると遅く、4年の1学期が終わって、夏休みを利用して病院見学に行くのが多いと思います。病院見学は個人で申し込むと受け付けてもらえない場合があるので、医療科学の先生方のどなたかに紹介状をかいてもらい、その後、各病院に申し込むのがベストです。そして、病院のを見つけ方なのですが、すでに募集が出ている病院を受けるのならいいのですが、臨床検査技師の求人が病院側にはあっても、実際にホームページ上などに募集情報が載らない場合もあり、その場合は医療科学や医学系の先生方が紹介してくれる病院であれば紹介状を書いてもらい、応募するのがいいと思います。

この際、クラスメイトなどと情報を交換し、「あの先生は* *病院を紹介できるらしいよ！」みたいな感じで情報を得るのも手です。また、医療科学類棟内の掲示板にも求人要綱が張り出されている場合があるので、こまめにチェックしたほうがいいです。

次に試験の内容なのですが、試験は大体が筆記試験と面接になると思います。筆記試験の対策としては、国家試験の勉強をしていくのと、記述問題対策として方法、原理、機序なども説明できるといいと思います。ですが、基本的には国家試験対策の勉強が大変だと思うので、そちらを優先させるべきでしょう。面接では病院を選んだ理由などが聞かれているみたいです。

最後に、この他のアドバイスとしては、臨床検査技師の求人は卒業ぎりぎりになって出たり、中には卒業してから内定が出たり、求人が出たりする場合もあるので、なかなか病院が最後の方まで病院が決まらなくてもあせらず国試勉強と両立させて就職活動を行っていった方がいいと思います。また、医療科学の先生方に色々相談して自分の将来について決めていくのも大事なことです。

【編集後記】

二宮治彦（編集長）

「筑波医療科学」は発刊して4年目に入り、医療科学専攻はこの春、第一回生を送り出しました。第1回生が発足させた「桐技会」が活動を初めて、後輩のための同窓会企画として、「国試」・「就活」をテーマにTJMSへ寄稿いただきました。

「国試」は学類としては、もちろん受験生の全員合格を期待していたわけですが、実際は、全員合格とは行きませんでした。合格者の体験記を読んでも、受験生としてはスタートが遅かったんだなと感じています。合格率の数字だけでなく、就職試験における成績にも連動してくることであったらと思います。

「体験記」を読んで、ゆっくり始めれば良いと鷹をくくる学生がますます増えるのを危惧しております。学生の雰囲気だけの問題なのか、カリキュラム構成上の問題もあるのか、検討を加えてみたいと思います。合格者は「余裕」を強調する傾向がいつもあるものです。むしろ、「失敗談」に学ぶべきことが多いのかもしれない。在学は余裕を持って準備を始められることを望みます。

筑波医療科学 第4巻 第2号	
編集	筑波医療科学 編集委員会 二宮治彦 有波忠雄
発行所	筑波大学 医学群 医療科学類 〒305-8575 茨城県つくば市天王台1-1-1
発行日	2007年 9月 25日